

<金標準、AI 株価の下落で逃避需要増を受けた金利低下の恩恵・・・>



(出所：オアシス)

エヌビディアが出資する人工知能（AI）向けクラウドサービス大手コアウィーブなどAI関連のハイテク株が再び売られた。特にコアウィーブは12%下落し、5日間で25%の下落となっている。多額の債務を抱えるAIインフラ企業が、借り入れコストの上昇が見込まれる中、債務返済に見合うだけの利益を期日までに計上できないのではないかと懸念が圧迫しており、この要因が米国債の逃避需要に結びつき、米国債の金利は落ち着きを見せている。またユーロドルにおいて4週間続いたドル高の動きも1ユーロ：1.1211ドルで下げ渋り、ユーロ安の動きが収まっている。そのためAI企業の過剰投資で株式市場へ流れ込んでいた流動性資金が、逃避から米国債へ移行しだしている。またウォーシュFRB議長の講演内容でも金融政策に言及もなく、10月のFOMCで政策金利据え置き確率が80%を超えるなど、利上げ観測が後退している事も金価格の下げ止まりを示す内容となる。そのため金標準先物は、依然として21500円を維持する値動きに思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り上げ、シグナルも切り上げている。RCIは短期が上昇し、長期も切り上げている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジ内に入り、レンジ上限の22000円に向けた値動きの期待が高まると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,495,000 円(2026 年 10 月 19 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 89,980 円(2026 年 10 月 19 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>